全国協議会ニュース
2023年9月1日発行　第373号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360　FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造　題字：仲田順和（会長）
https://www.marrow.or.jp　E-Mail:office@marrow.or.jp

# 移植医療対策推進室長に野田博之さん

造血幹細胞移植を担当する厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室長に、5月1日付けで野田博之（のだひろゆき）さんが就任されました。お話を伺いましたのでご紹介します。

**野田室長プロフィール**

公衆衛生学、疫学、公衆衛生政策が専門。筑波大学医学専門学群を卒業後、筑波大学や大阪大学で公衆衛生学・疫学を修め、特に地域での生活習慣病や脳卒中の予防に携わり、教員としても活動。2012年に厚生労働省に入省し、たばこ対策、生活習慣病対策、循環器病対策に3年、その後、環境省に移り石綿の健康被害救済や福島の放射線の健康管理の仕事に携わる。2016年からは厚生労働省や内閣官房で感染症対策に携わった。新型コロナウイルス感染症対策に関しては2020年1月の当初から担当した。今年の5月1日から移植医療対策推進室長に着任。

**移植医療対策推進室長に就任されての抱負、造血幹細胞移植の課題と取り組みについてお聞かせください。**

課題は大きく分けて3つあります。

⑴骨髄バンクのドナープールは今後数年以内に確実に減少することが予想されます。ドナープールの総量自体が減るということに加え、生着率を考えると若い方からのドナー登録を特に増やしていくことが重要であるため、若年層のドナー登録をいかに増やしていくかが課題となります。また、登録ドナーの転職や引っ越しなど若年層のライフスタイルに合せた対策も必要です。登録から提供までには、長い時間がかかるため、最終的にドナーになっていただく時にもドナーと骨髄バンクとの関係性の維持ということが重要になります。難しい話ではありますが、いかにしてドナーとの関係性を維持していくか、骨髄バンクには頑張ってもらいたいと思います。

⑵コーディネート期間の短縮は以前からの課題でもあり、きちんと取り組んでいかなければなりません。造血幹細胞移植医療体制整備事業における拠点病院を整備するなど国としても後押しをしていきます。日本骨髄バンクも努力・工夫をしてきていますが、一方で、コーディネート期間が中央値で100日以上かかっているという現状が依然として存在します。何としても短くしていかなければなりません。取り組みの一つとしては末梢血幹細胞移植をよりやりやすくしていくことがあります。必要な対策を、一つひとつ、きちんと進めていくことが重要です。

⑶造血幹細胞移植全体について、今後のグランドデザインも考えていかなければなりません。日本では、臍帯血移植が増えており、また末梢血幹細胞移植も増えてきている一方、骨髄移植が減少してきています。しかし骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植それぞれに特性があり、今後とも骨髄移植が完全に必要なくなるという話ではありません。現場の意見を聞きながら、今後の臨床現場での動向も見据えて、造血幹細胞移植のグランドデザインを考えていく必要があります。

**移植患者さんの長期フォローアップ、社会復帰の支援についてはいかがでしょう？**

民間と行政のそれぞれの特性を活かした取り組みが必要です。例えば行政ではできない、またはしない方が良いという問題に、いかに民間に取り組んでもらうか？ 社会としてどう対応していくかが課題だと思います。

医療従事者だけではなく、患者さん自身が、医療を作ることに参加していかなければ、その医療の分野が発展していくということはありません。患者さんの会などがその好例です。いかにして社会全体がその医療の分野を育んでいくかということが、その地域や国全体の医療が発展するために重要であると考えています。

**ドナー登録者、ボランティアへのメッセージがありましたらお願いします。**

通常の医療では、医療従事者と患者さんとが存在することで医療を成立させることも可能ですが、移植医療の場合には、それに加えてドナーの存在が不可欠です。ドナー登録者の皆さんには引き続きご協力を頂ければと思います。

また、移植医療は普通の人にとってはあまりなじみがないため、なかなか浸透していないとも感じています。移植医療というものを、普通の人たちに知ってもらうことが重要です。医者や行政官が言っても伝わりにくい部分もありますが、ボランティアの皆さんに「こういったことがあります」と言ってもらうことで、広がっていく世界があります。今後とも、普及啓発へのご協力を頂きますようお願いします。

（聞き手　理事　山崎裕一）

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

## 骨髄バンクNOW

《MONTHLY JMDP（8月15日発行）より抜粋》

**■日本骨髄バンクの現状（2023年7月末現在）**

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

| | | 6月 | 7月 | 現在数 | 累計数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ドナー登録者数 | | 2,948 | 2,985 | 547,318 | 934,032 |
| 患者登録者数 | | 192 | 176 | 1,627 | 67,070 |
| 採取数 | 骨髄 | 72 | 75 | — | 25,860 |
| | 末梢血幹細胞 | 37 | 32 | — | 1,924 |
| | 合計 | 109 | 107 | — | 27,784 |

**■7月の区分別ドナー登録者数**

献血ルーム／677人、献血併行型集団登録会／2,264人、集団登録会／9人、その他／35人

**■7月の年齢別ドナー登録者数（現在数）**

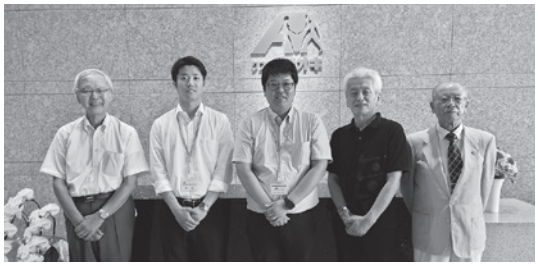
10代　4,602人／20代　89,361人／30代　135,382人
40代　215,485人／50代　102,488人

**■7月の20歳未満の登録者442人**

**■7月末までの末梢血幹細胞採取累計数：1,915件（国内ドナー→国内患者）**

注）数値は速報値のため訂正する場合があります。

## 新理事長が支援者を訪問



左から：梅田、本田ご担当、小林総務部長、福島代表、樫見事務長

横江町店の募金箱

### 多額の募金箱寄付への謝意のため「クスリのアオキ」様訪問

8月3日（木）石川県白山市横江町にある「クスリのアオキ」様の本社を訪問しました。同社は「地域・社会貢献活動」を推進しており、その活動の一つに「骨髄バンク支援」があり、クスリのアオキ全店のレジ横に全国協議会の募金箱が設置されています。本社訪問の前に立ち寄った横江町店のレジ横にもしっかりと置いてありました。

募金箱寄付金は、2023年8月10日現在で累計73,042,599円にもなっています。アオキ様の寄付は、全国協議会の運営にとって大きな支援となっています。

今回の訪問には、アオキ様の募金箱寄付で大きな橋渡しをしてくださった「いしかわ骨髄バンク推進・はとの会」（はとの会）の福島健一代表、樫見昭夫事務長（前代表）に同道いただきました。同会は、1990年4月に骨髄バンクを設立しようと、金沢大学、同医学部、同附属病院、石川県赤十字血液センター、患者の会が中心となり、創設されました。同年6月、全国協議会の発足と同時に加盟いただき、翌年1991年12月に骨髄移植推進財団（現日本骨髄バンク）が設立されました。以来今日まで、石川県内の関係団体と協力して、骨髄バンク推進の核としてボランティア活動を繰り広げてきています。

16：00に3人で本社を訪ねましたが、同社からは小林恭平総務部長、本田裕和同部危機管理・店舗設備担当が対応くださいました。お二人に多額の募金箱寄付への心からの感謝を伝えるとともに、寄付金の活用についてご説明しました。そして今後もご支援をいただけますようお願いをしました。

同社が募金箱を置いてくださるようになった経緯は、青木桂生会長（81歳）が社長をされていた時、親族のお子さんが白血病になられたことからと伺いました。寄付金は当初はとの会へ寄付されましたが、はとの会の仲介でそれが全国協議会への寄付になりました。改めて心からお礼申し上げます。

## 日本骨髄バンク都道府県担当者会議開催

8月3日（木）に日本骨髄バンク主催の都道府県骨髄バンク担当者会議がオンラインで開催され、全国から都道府県の担当者が参加し、また厚生労働省からは移植医療対策推進室の野田博之室長が参加されました。

日本骨髄バンクの小寺良尚理事長の挨拶の後、野田室長による講演があり、骨髄移植医療を取り巻く環境の変遷、課題について話されるとともに、全国の担当者に対し、骨髄移植事業への協力が呼掛けられました。

その後小川みどり事務局長を始めとした日本骨髄バンクの担当者より①骨髄バンクの現状と課題②若年層ドナー登録の推進③プロジェクトオレンジの紹介④語りべ講演会⑤ドナー休暇・公欠の推進⑥アンケート結果と骨髄バンク推進月間の案内の各テーマに沿って報告と協力依頼があり、最後に質疑の時間が設けられました。登録会現場の状況に関して、スワブ登録に関してなど、活発な意見交換がされました。患者さんのための活動につながることを期待します。

### 富山の会の全国協議会元理事長訪問

左から：品川さん、堂田さん

アオキ様訪問前日の8月2日（水）、富山市に現在休会中の「富山県骨髄バンクを広める会」（富山の会）の品川保弘代表（全国協議会元理事長2003～2006年の2期4年）と堂田千里さん（全国協議会HPメンテ担当の会社、㈱エアプランツ社長、元患者）を訪問して懇談しました。富山の会は、1993年夏に数人で設立されました。現在は総会、定例会も開催していないとのことで、説明員資格保有者が県と打ち合わせ個人的に献血会場で登録会を開いているだけとのことです。2時間懇談した後、仕事の入った堂田さんを品川さんが車で会社まで送り、その後富山市内を観光案内してくれました。大変感謝しています。

（理事長　梅田正造）

### ミニのぼりをご活用ください

私たち骨髄バンクランナーズは、襷（タスキ）をかけて全国のマラソン大会やウォーキング大会に参加しており、10月のグリーンリボンランニングフェスティバルにも参加予定です。

ラジオで骨髄バンク登録者が減少していると耳にし、メンバーと相談してミニのぼりを作成しました。リュックにつけたり、車に飾ったりして日々啓発に活用できます。関西の骨髄バンク登録会ではミニのぼりが目立つと好評をいただきました。

これを機にミニのぼり活動を広めていきたいと考えています。詳細は骨髄バンクランナーズのFacebookをご覧下さい。

（骨髄バンクランナーズ　斎藤あゆみ）

## 顧問のみなさんの横顔

全国協議会には「顧問」という役職があります。顧問は組織の活動や運営を担う役員ではありませんが、理事会の要請で、あるいは自らすすんで様々な助言や協力を行う諮問機関の役割があります。

今年７月から全国協議会は、梅田理事長のもと新たな体制でスタートしました。同時に顧問の委嘱を行い、みなさんから就任のご快諾をいただきました。顧問のほとんどは従前に引き続いての就任となりますが、みなさんのプロフィールを紹介します。

**【顧問・岡村正氏】**東芝名誉社友（元会長）、日本商工会議所名誉会頭。ラグビーワールドカップ2019日本大会の時は、運営に携わりました。東京大学ラグビー部の先輩に勧められて東芝に入社、ラグビー現役引退後もレフェリーとなるなどラグビーとの縁は深いものがあります。そのラグビーの先輩が白血病に倒れたことから骨髄バンクにも関心をお持ちで、全国協議会の賛助会員制度構築のため、全国の商工会議所の橋渡しなどご尽力をいただいています。1938年生まれ。

**【顧問・東井朝仁氏】**一般社団法人東井悠友林理事長。1966年高校を卒業して厚生省入省、1970年国家公務員中級職合格。公的骨髄バンクが発足した当時、厚生省保健医療局疾病対策課で、骨髄移植推進担当の課長補佐として辣腕をふるいました。何の形も無い骨髄バンクの原型を創るために精力的に活動され、ボランティアたちにも熱い意欲を吹き込みました。その後、創成期の老人保健対策や国民の健康増進推進などを担当、早期退職後は三重県厚生連常務理事などを歴任。早稲田大学卒業。1947年生まれ。

**【顧問・鎌田薫氏】**国立公文書館館長。早稲田大学第16代総長、私立大学連盟会長、大学スポーツ協会会長などを歴任。1997年、日本臍帯血移植検討会委員に就任して、公的さい帯血バンク創設に向けた審議に参加しました。1999年日本さい帯血バンクネットワーク設立時の事業運営委員長、後に会長などさい帯血バンク黎明期の運営基礎作りに尽力されました。家族に白血病患者がいて、患者家族の気持ちや立場にも精通しておられます。早稲田大学卒業。1948年生まれ。

**【顧問・岩城光英氏】**元いわき市長、元法務大臣、元参議院議員。長く超党派 骨髄・さい帯血バンク議員連盟の事務局長を務められました。いわき市長であった1990年代初頭、福島県骨髄バンク推進連絡協議会運営委員長・全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局長（いずれも当時）であった陽田秀夫氏の陳情を受け、いわき市立磐城共立病院の無菌室設置の実現に尽力するなど、黎明期から骨髄バンク事業に携わってこられました。現在は日本トライアスロン連合会長、その他多数の要職を務められています。上智大学卒業。1949年生まれ。

**【顧問・谷口修一氏】**国家公務員共済組合連合会浜の町病院長。九州大学病院、浜の町病院を経て、2003年虎の門病院血液内科部長に就任し、年間150例以上の造血幹細胞移植を実施する巨大なチームに成長させました。おそらく造血幹細胞移植の分野では、世界一の症例数を担当してきた移植医です。虎の門チームが開発したミニ移植とさい帯血移植の組み合わせは高齢者治療のスタンダードになりました。またハンドブック「白血病と言われたら」の監修など全国協議会とは長いおつきあいです。九州大学卒業。1960年生まれ。

**【顧問・陽田秀夫氏】**建築家、邑建築事務所会長。建築雑誌の表紙を飾るような建築物のデザイン設計で数多くの賞を受賞された建築デザイナー。まだ、骨髄バンクが生まれる前に白血病患者の妻とともに、骨髄バンクの必要性を訴えました。草の根運動としての骨髄バンク運動を組織化し、地元福島での地道な運動を精力的に行う一方で、全国骨髄バンク推進連絡協議会のリーダーとして全国のボランティアをまとめてきた中心的な人物です。武蔵野工業大学卒業。1945年生まれ。

**【顧問・野村正満氏・新任】**放送作家、日本脚本家連盟会員。若い頃は歌番組やバラエティー番組、アニメやドラマ、コントも書いていたそうですが、主に情報系や報道系のドキュメンタリーを担当してきました。1990年に家族の白血病患者が血縁者間移植を行うことになったのを機に、骨髄バンク設立運動に参加。任意団体だった全国協議会最後の運営委員長、2000年全国協議会がNPO法人化した際の初代理事長に就任しました。その後2013-2017年も理事長を歴任しています。早稲田大学卒業。1948年生まれ。

## 「浅野茂隆先生を偲ぶ会」開催

浅野先生は、2020年8月12日に逝去されました。コロナ禍のためご家族だけで葬儀が執り行われ、今回、ようやく関係者の努力で、8月4日（金）東京都港区白金台の八芳園で偲ぶ会が開催されました。

当日は、浅野先生の門下生や交流があった諸先生、看護師、患者さんなど200人を超える参加者があり、その優れた研究業績と人柄やエピソードが語られ、とても和やかに故人を偲びつつ、親睦と交流が行われました。浅野先生は、よく学びよく遊べで、研究に集中する一方で、麻雀が大好きで勝ちも負けも豪放快楽、カラオケも好きでした。何よりも大変な大食家でした、など皆さんがお話されていました。

主な業績では、①白血球の増加因子G-CSFの機序解明と製剤化②骨髄移植医師の育成、骨髄バンクのコーディネートシステム構築③臍帯血移植の治療研究、さい帯血バンクの設立④遺伝子治療研究などで、「常に10年先を見据えた治療研究が基本だ」と言われていました。

全国協議会にとっては、患者家族「フリーダイヤル相談」開設に取り組んで下さり、その後、患者さんへのハンドブック「白血病と言われたら」の編集監修にご協力くださいました。血液内科学と造血幹細胞治療の第一人者でありながら、いつも患者家族、ボランティア活動に同じ目線で接して下さいました。また、医療改革のパートナーだと言って励ましてくださいました。ここに、これまでの数々のご貢献に心からの御礼を申し上げ、先生のご冥福を祈ります。合掌

（本紙　2021年2月1日号に追悼記事掲載）

## 各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

和歌山

### 地域に寄り添う血液内科のお医者さん

皆さまは、2002年2月26日に放送されたNHK「プロジェクトX」～決断　命の一滴～をご覧になられたでしょうか。そして、覚えておられるでしょうか。内容は、当協議会前理事長の田中重勝さんが日本初の非血縁ドナーに、そして、骨髄バンクの設立を待つことなく亡くなった女子中学生のお話が主軸でした。さおりちゃんです。生きていれば今年52歳です。

私は、さおりちゃんのご両親とも、最後の主治医（当時は研修医）ともずっとお付き合いを続けてきました。さおりちゃんの主治医・直川匡晴（のうがわまさはる）先生は、その後、京都大学医学部附属病院からご実家のある和歌山に戻られ、日本赤十字社和歌山医療センターで長年、骨髄移植医として勤務されてこられました。

聞くところによりますと、もとは循環器内科医志望でしたが、さおりちゃんの主治医になり、そして、隣の病室に入院していた私が名古屋で骨髄移植を受け、元気に帰って来たのを見て、「血液内科医になろう！」と決心されたそうです。

そして、35年間血液疾患の患者さんの救世主としてお勤めになられ、今年の7月1日に「のうがわ内科・血液内科クリニック」を開業されたのです。血液内科を看板に掲げての開業なんて、素敵すぎます。血液疾患の患者さんは、退院後も何かと通院が欠かせません。大きな病院では待つだけでも大変です。そして、担当の先生がコロコロ変わる。本当に疲れてしまいます。でも、のうがわクリニックに行くと、にこやかにいつも迎えてくださる。それだけでも嬉しいに違いありません。

ということで、行ってきました！いざ、和歌山へ。もちろん、サプライズでのクリニック訪問。誰かわかってもらえなかったら、シレッと保険証を出して、「初診ですが…」と言って受付を突破する予定でしたが、すぐにバレました！ 大爆笑！！！

先生の真新しい机の上には、色あせたさおりちゃんの写真が飾られていました。さおりちゃんが存在していたからこそ、多くの和歌山の患者さんがお元気になられたのだとあらためて実感するひとときでした。和歌山の皆さん、これからはのうがわクリニックへGO！！！

（大谷貴子）

奈良

### 自治体主催の上映会開催

左から：山本雅也さん、仲川げん市長、堀ともこさん

7月29日（土）奈良市西部公民館で「誰でも活躍できる社会について」と題しトーク＆映画会が行われ、今年の映画は「いちばん逢いたいひと」でした。奈良市仲川げん市長が来場されご挨拶、長年骨髄バンクを応援くださり、県内でも初期にドナー助成制度を導入された市長のスピーチは的確なお話。今回の映画会も市長の肝入りで開催されました。この映画のプロデューサー堀ともこさんと主題歌を歌われた山本雅也さん（全国協議会青年部長）が上映前に登壇され、「誰でも活躍できる社会について」をお話しされました。堀さんは、映画を創りたいと思ったけれど、普通の主婦で映画製作の右も左もわからないところから10年以上かかって上映に至ったお話、山本さんはデビューから10年、つらい事も多かったけれど努力が実り今年メジャーデビューでき、映画の主題歌にも決まったということでした。ギターを持って主題歌を歌われました。前日には「ならドットFM」の生放送番組「とんでもフライデー」に出演、そんなエピソードもお話ししていただきました。300人入る会場は事前申込者で満席でした。運営して下さった奈良市共生社会推進課の職員さんとならチャレンジドの皆さんのお陰で、多くの方にトーク＆映画を見ていただけました。自治体主催の「いちばん逢いたいひと」上映は奈良市が全国初とのことでした。奈良市共生社会推進課の女性職員さんが総合司会をされましたが、映画上映後感動のあまり泣きながら司会され、こちらももらい泣きしてしまいました。企画を奈良市長に提言された「なら骨髄バンクの会」の小笹晃子さん、後押しをされた榎本博一奈良市議会議員のお陰で成功裏に終わりました。

（なら骨髄バンクの会　山村詔一郎）

## 心からのご寄付に感謝申し上げます ●7月21日～8月20日（敬称略）

**●一般**

| | | |
|---|---|---|
| 植野　良一 | 現金 | 30,000円 |
| 福原　卓也 | 現金 | 3,000円 |
| 飛田　行康 | 現金 | 10,000円 |
| 朝比奈　邦子 | 現金 | 10,000円 |
| 匿名 | 現金 | 40,000円 |
| 匿名 | 現金 | 1,000円 |

**●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金**

| | | |
|---|---|---|
| 吉田　展子 | 現金 | 5,000円 |
| 本田　真奈美 | 現金 | 5,000円 |
| 塩谷　泰人 | 現金 | 1,000円 |

**●こうのとりマリーン基金**

| | | |
|---|---|---|
| オカモト　ヤスオ | 現金 | 3,000円 |

**●募金箱**

| | | |
|---|---|---|
| 株式会社　クスリのアオキ | 現金 | 1,090,507円 |
| 株式会社　マルト商事 | 現金 | 69,452円 |
| 株式会社　ナルックス | 現金 | 18,950円 |
| 株式会社　フクヤ | 現金 | 35,141円 |

**●つながる募金**

| | | |
|---|---|---|
| | 現金 | 15,300円 |

**●キモチと。**

| | | |
|---|---|---|
| | 現金 | 679円 |

**活動資金の支援をお願いします**

銀行口座　三井住友銀行　新宿通支店　普通　5666655

郵便振替口座　00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

振込用紙をご希望の場合は、郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までFAXもしくはメールにてご請求ください。